

第1章 仮想化ソフトウェアでできること

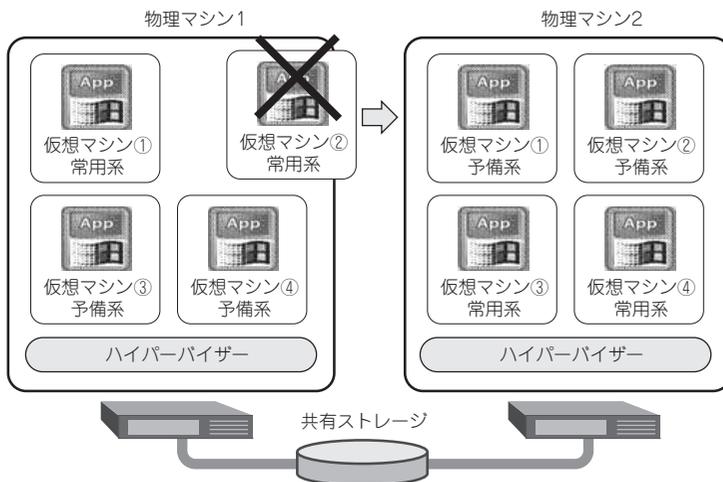


図1.14 仮想化ソフトウェアによる二重化構成

スタンバイ状態のサーバーは平常時には負荷が極めて少ないため、仮想マシンの活用で効率的な二重化構成が実現できる。

仮想化ソフトウェアを使うことで、二重化も経済的に実現することができます。二重化には、常用系に加え予備系を用いる方法と、負荷分散による方法などがありますが、ここでは前者を例にしました(図1.14)。

仮想化ソフトウェア・メリットのまとめ

このように仮想化ソフトウェアを使うことで、様々なメリットが生まれます。まとめると、以下のようになります。

- 構築、運用コストの削減
- 物理的なハードウェアの削減(省スペース, 省電力)
- ソフトウェア・バージョンアップ作業の効率化, 高信頼化
- システムとしての信頼性の向上
- ハードウェア・リソース配分の効率化

特に、複数のサーバー・マシンを使用している企業ネットワークでは、台数を削減し、効率化できるメリットが大きいと思います。

一方で、仮想化ソフトウェアを動かすためには、マルチ・コアCPUが望ましいなど、それなりに高いスペックのハードウェア環境が必要です。とはいえ、Windows Vistaを実用的に動かすための環境と大差ないともいえます。

次章以降で、具体的な導入方法や活用方法、そして実際のパフォーマンスなどについて説明していくことにします。

第2章

仮想化ソフトウェア XenServerとは

XenServerは、オープンソース・ソフトウェアとして開発が進められてきた仮想化ソフトウェアXenが元になっており、Xen技術の開発者によって設立された企業で、Xenの商用版として開発が進められてきました。XenとXenServerの関係は、Linuxの世界におけるCentOSとRed Hatの関係のようなものと考えればわかりやすいと思います。

